

# 第二次中期計画

〈2019(令和元)年度～2024(令和6)年度〉

令和5年度活動実績報告書

# 目次

## ○看護学部

1) 自己点検・評価運営委員会 .....	1
2) 教務委員会 .....	4
3) 実習委員会 .....	6
4) 学生委員会 .....	8
5) 看護職育成委員会 .....	9
6) 国際交流委員会 .....	11
7) 地域貢献委員会 .....	13
8) キャンパス広報委員会 .....	15
9) 奨学生委員会 .....	18
10) FD委員会 .....	19
11) 入学者選考委員会 .....	21
12) 研究倫理審査委員会 .....	23

## ○看護学研究科(大学院)

1) 研究科教授会 .....	25
-----------------	----

○看護学部

## 自己点検・評価運営委員会

### 1. 構成員

14名(教員11名、事務職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

#### (1)的確な自己点検及び評価の実施

・大学の教育研究活動や業務運営について、自己点検・外部評価を行ない、継続的な改善に努める。

#### (2)情報公開の推進

・透明性が高く開かれた大学運営を行うため、情報等を積極的に公開するとともに、大学の教育研究活動等の情報や成果について広く情報発信する。

#### (3)大学機関別認証評価への対策と、評価後の対応

・平成32年度の大学機関別認証評価受審に向けた準備を遅延なく行うとともに、評価内容について検討、適切な対策を行う。

#### (4)各種補助金獲得に向けた対策

・私立大学等改革総合支援事業等、外部資金獲得のための検討、対策を行う。

### 3. 令和5年度の取組み目標(PLAN 当期実施計画)

#### (1)的確な自己点検及び評価の実施

##### 1)内部質保証システムの改善・向上

・短大との共通部署・委員会を含めた全学的な内部質保証システムを確立し、それに伴う規定の見直し・改正を的確に行う。

##### 2)「中期計画」に基づく各委員会における課題の抽出と対策

・各委員会の作成した「中期計画」に基づき、全学の現状を把握し、課題を抽出し、改善・向上に向けた方針を策定し、各委員会・領域へフィードバックを行う。

##### 3)「自己点検・評価シート」による大学全体の課題の抽出と対策

・大学基準協会「評価の視点」に準拠する「自己点検・評価シート」にしたがって、本学の各項目の現状を点検・評価し、課題を抽出し、改善・向上に向けた方針を策定する。

##### 4)令和5年度活動実績報告書の作成

・各委員会は、令和5年度の委員会活動をPDCAサイクルにもとづいて点検・評価し、実績報告書を作成する。

#### (2)情報公開の推進

・「活動実績報告書」(令和5年度)、「学生による授業アンケート報告書」(令和4年度)等の公開

#### (3)大学機関別認証評価後の対応

・令和6年7月に認証評価課題改善報告書を提出する。

#### (4)各種補助金獲得に向けた対策

・私立大学等改革総合支援事業のための検討を行い、関係部署と連携し取り組む。

#### 4. 令和5年度の取組み(DO 実行)

##### (1) 的確な自己点検及び評価の実施

###### 1) 内部質保証システムの改善・向上

・「鳥取看護大学における内部質保証に関する方針」を策定し、大学ホームページ上に公開した。

###### 2) 各委員会における課題の抽出と対策

・令和5年度前期「中期計画」にもとづいて、次の13委員会について課題の抽出と点検・評価を行った。

- ① 自己点検・評価運営委員会、② 教務委員会、③ 実習委員会、④ 学生委員会、
- ⑤ 看護職育成委員会、⑥ 国際交流委員会、⑦ 地域貢献委員会、⑧ キャンパス広報委員会、
- ⑨ FD委員会、⑩ 入学者選考委員会、⑪ キャリア支援委員会、⑫ 研究倫理審査委員会、
- ⑬ 研究科教授会

###### 3) 看護大学・短期大学合同委員会における課題の抽出と対策

・両大学の合同委員会委員長または代表者を加えた「自己点検・評価運営拡大委員会」(9月)を開催し、点検・評価を行い、課題の抽出とその対策を協議した。

- ① 学生委員会、② 学術委員会、③ 学生募集広報委員会、④ 図書委員会、⑤ グローカルセンター、
- ⑥ ヘルスサポートセンター

###### 4) 「自己点検・評価シート」による大学全体の課題の抽出と対策

・11タイトル全202項目について、7チーム(自己点検/教育課程/臨地実習/入試広報/学生支援/地域貢献/法人)が分担して自己評価した。評価は4段階(◎:完璧に出来ている、○:出来ている、△:不十分、×:着手していない)で評価している。

・自己評価が「△」あるいは「×」の項目は、今後改善をめざす。

###### 3) 各委員会において課題を抽出・分析し、次のような取組みを実施した。

- ① 入学生アンケートの実施(5月)
- ② 令和4年度「学生による授業アンケート」の実施報告(5月)
- ③ 国家試験結果と模試成績の相関について(7月)
- ④ 令和5年度「学生生活アンケート」集計結果の報告(1月)
- ⑤ 「ディプロマポリシーについての卒業習得状況アンケート」分析(1月)
- ⑥ 令和5年度「入試形態と入学後成績」分析の報告(1月)
- ⑦ 研究科「3つのポリシー」の追加・修正(8月)

###### 4) 令和5年度活動実績報告書の作成

##### (2) 情報公開の推進

- 1) 令和4年度「学生による授業アンケート」報告書の公開
- 2) 令和4年度活動実績報告書の公表
- 3) IR活動の公開

##### (3) 認証評価課題改善報告書提出への準備

##### (4) 私立大学等改革総合支援事業

## 5. 令和5年度の取組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

- (1) 的確な自己点検及び評価の実施
  - 1) 内部質保証システムの改善・向上
  - 2) 各委員会・領域における課題の抽出と対策
  - 3) 自己点検・評価運営拡大委員会による課題の抽出と対策
  - 4) 「自己点検・評価シート」による課題の抽出と対策
  - 5) 各委員会の課題改善に向けた取組み・分析
  - 6) 令和4年度活動実績報告書の作成
  - 7) 令和4年度中期計画の作成
- (2) 情報公開の推進
- (3) 認証評価課題改善報告書への準備
- (4) 各種補助金獲得に向けた対策

## 6. 令和6年度の取組み(ACTION 改善策)

- (1) 的確な自己点検及び評価の実施
  - 1) 内部質保証システムの改善・向上
  - 2) 各委員会における課題の抽出と対策
  - 3) 令和5年度活動実績報告書の作成
  - 4) 令和5年度中期計画の作成
- (2) 情報公開の推進
- (3) 認証評価課題改善報告書への準備
- (4) 各種補助金獲得に向けた対策

## 教務委員会

### 1. 構成員

12名(教員10名、事務職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

#### (1) 学部教育の充実および方法論の探究

- ・各年度における開講科目の充実に努めるとともに、体系化させた教育内容の実践に留意する。
- ・教育の目的性の統一を図りながら、教授法の検討を行い、学部教育の内容の充実をはかる。
- ・広域をキャンパスにした教育実践の中で、学部教育の方法論を探究する。

#### (2) 教員の教育力向上

- ・激変する社会状況を見極めつつ看護教育の本質を探究し、各教員の教育力向上に力を注ぐ。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

#### (1) 新カリキュラムの授業運営(初年次教育の強化)

#### (2) コロナ禍の動向をふまえた教育環境の充実

#### (3) 領域横断科目、4年次科目の体系化

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

#### (1) 新カリキュラムの授業運営

- ・2019カリキュラムからの移行期であり、学生委員会、担任と連携し、授業計画への教育的配慮に努めた。試験運営の充実のため、「試験監督に関する申し合わせ」を刷新した。天候不順に伴う休講措置についてタイムリーな対応に努めた。
- ・教育課程評価について、2024年度4月に全科目評価を全学で共有する予定としている。
- ・教育評価の可視化、体系化に向けて卒業時のディプロマ到達度アンケート、GPA(単位修得状況)、看護技術チェックリスト、ポートフォリオなど評価ツールの一元化、可視化に向けて検討を進めた。令和6年度より一部の評価ツールの電子化、一元化を導入予定とした。
- ・非常勤講師との連携の充実に向けて窓口領域を通じて意見交換・調整した。
- ・パワフル支援として、初年次教育の強化を視野に解剖ミニクイズを大学ホールやエレベーター内で目に入りやすいように掲示を工夫した。

#### (2) コロナ禍の感染管理をふまえたカリキュラム運営

- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、学生および教員の自主管理によって、感染拡大はみられなかった。大講義室、中講義室、学内教室を効率的に運用し、授業環境の確保に努めた。

#### (3) 4年次科目の体系化

- ・令和5年度より、4年次科目「看護学統合実習」「看護学統合研究」「看護総合」の3科目を統合的に科目運営した。領域ごとに独創性をもつ科目であり、ワーキングの活動をつうじて授業目標や科目の設定意図が共有できるように調整に努め、運営がなされた。3科目連動の効果を検証する評価アンケートを年度末に集計した。

## 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

- (1)新カリキュラムの授業運営(新カリキュラム3年目の運営)
- (2)教育評価の可視化
- (3)領域横断科目、4年次科目の体系化と効果検証

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

- (1)新カリキュラムの授業運営(新カリキュラム3年目の運営)
  - ・時間割の工夫および実習室などの教育環境を調整する。
  - ・パワフル支援を学生委員会と連携して継続して行う。
  - ・2019カリキュラムの履修について規定に沿って保証する。
- (2)教育評価の可視化
  - ・GPA、ディプロマ到達度、ポートフォリオ、看護技術チェックリストなどの評価ツールを効果的に活用し、電子化への移行により評価内容を可視化する。
- (3)領域横断科目、4年次科目の体系化と効果検証
  - ・ワーキングの決定状況をふまえて、効果的な運営を行い、評価する。
  - ・「看護学統合研究」「看護総合」「看護学統合実習」の3科目を連動させた体系的な科目運営を行い、形成評価、到達度評価により質的向上を図る。

## 実習委員会

### 1. 構成員

20名(教員15名、コーディネーター2名、職員3名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

- (1) 臨地実習において学生の学習効果を向上させ、教員の教育を助けるシステムを整える。
  - ・学生のレディネスを高める環境を整える。
  - ・教員が研究、社会貢献とのバランスをとりながら臨地実習教育活動を行えるようなシステムをつくる。
- (2) 実習施設との連携・協働の質を高める。
  - ・地域コーディネーターと連携し、施設との信頼関係の構築、維持、発展を図るための具体的方法を洗練する。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

- (1) 臨地実習において学生の学習効果を向上させ、教員の教育を助けるシステムを整える。
  - ・「障害学生等の支援」について学生委員会と連携し、実習における支援の調整。
  - ・学生の实習希望地を調査し、学生の希望にそった実習の配置。
  - ・学生の健康・安全管理:抗体価検査を実施・予防接種の勧奨。
  - ・実習委員会の業務の効率的な運営およびマニュアルの作成。
- (2) 実習施設との連携・協働の質を高める。
  - ・COVID19が5類感染症に移行することに伴い、施設と連携した適切な対応。
  - ・調整会議、教育会議、指導講師研修会について、その目的・方法について見直し、より効果的な連携方法の検討。
  - ・臨地実習指導講師の運用。

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

- (1) 臨地実習において学生の学習効果を向上させ、教員の教育を助けるシステムを整える。
  - ・修学上の支援申請がされた学生について、学生委員会・担任とヘルスサポートセンターと連携し、「特別支援会議」を開催し、実習における具体的な支援を検討し、実習担当教員に周知・共有した。
  - ・今年度より学生の实習希望地調査をActive Academyの就学ポートフォリオを活用し、効率化した。
  - ・抗体検査の結果判明後、個別に接種状況・接種計画を確認し、実習施設への情報提供は、事務と保健室が連携して行った。
  - ・実習委員会の業務の検討および業務マニュアルおよび申し合わせ集の作成をすすめた。
- (2) 実習施設との連携・協働の質を高める。
  - ・COVID19が5類感染症に移行に伴う実習施設の受け入れ要件を共有するスレッドを立ち上げ、受け入れ要件の随時の変更について、実習担当教員が把握し対応できるようにした。
  - ・実習調整会議を2回(6月、3月)にWEBで開催した。

- ・教育会議と指導講師研修を合同で WEB にて開催した。「新型コロナウイルス感染症の流行が、卒業時の看護実践能力および新人看護職員の指導に与えた影響について」をテーマに、病院・施設の立場、教育の立場からの話題提供後、その後オンラインによるグループワークを行った。
- ・臨地実習指導講師は、54 名に称号を付与した。

## 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

(1) 臨地実習において学生の学習効果を向上させ、教員の教育を助けるシステムを整える。

- ・学生委員会と連携した「特別支援会議」において検討された特別支援学生への実習における支援策により、担当教員もその特性をふまえた対応ができた。
- ・合同で開催した「教育会議・指導講師研修」には、30 の実習施設から実習施設の責任者および臨地実習指導講師 61 名、大学教員 18 名が参加した。アンケート結果は、大変満足した 81%、満足した 19%と好評であった。

(2) 実習施設との連携・協働の質を高める。

- ・COVID19 が 5 類感染症に移行に伴う実習施設の受け入れ要件の変更は、随時スレッドや一覧表で把握できた。
- ・実習調整会議の WEB での開催は好評で継続の希望がみられた。

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

(1) 臨地実習において学生の学習効果を向上させ、教員の教育を助けるシステムを整える。

- ・「実習教育会議」、「実習に関わる勉強会」について、効果的な看護学実習にむけてテーマや開催方法等を検討していく。
- ・業務のマニュアルや申し合わせ等を一覧できる資料を作成し、実習委員会の運営について見える化し、より効果的な運営を図る。

(2) 実習施設との連携・協働の質を高める。

- ・看護学生の臨地実習における学びを深めることができる、よりよい看護学実習の実現にむけて、施設との連携・協体制を推進する。
- 各実習施設に担当の教員を置き、施設との連携・協働体制を強化する。
- 各施設の担当教員とその施設の『臨地実習指導講師』とより看護学実習にむけた連携・協働体制を構築する。

## 学生委員会

### 1. 構成員

15名(教員13名、事務職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

- ・学生が学修に専念し、充実した学生生活を送ることが出来るよう環境を整え、人間的成長を促すための支援を充実・強化する。
- ・担任制度、チューター制度を活かしながら、教務委員会や奨学生委員会等の各委員会と連携し、教員間で学生のサポート体制を確立する。
- ・学生が4年の課程で看護師としての十分な資質を身につけることができるように、大学の各行事を学生生活の向上のために効果的に配する。
- ・学生の充実した学生生活のために必要な学内の施設・設備等の調整を図る。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

- (1) 個々の学生への丁寧な対応と支援の充実・強化
- (2) 学内の学修環境の整備・充実

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

- (1) 個々の学生への丁寧な対応と支援の充実・強化
  - ① 担任およびチューター制の運営・調整
  - ② 学生の諸問題への対応
  - ③ 学期初めのオリエンテーションの調整・運営
  - ④ 交通事故対応と交通事故防止のための活動
  - ⑤ 支援を必要とする学生への対応
- (2) 学内の学修環境の整備・充実
  - ① 学友会行事・サークル活動のサポート
  - ② 学生の生活状況やニーズの確認
  - ③ 学生の大学生生活の環境整備

### 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

- (1) 個々の学生への丁寧な対応と支援の充実・強化
- (2) 学内の学修環境の整備・充実

### 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

- (1) 個々の学生への丁寧な対応と支援の充実・強化
- (2) 学内の学修環境の整備・充実

## 看護職育成委員会

### 1. 構成員

12名(教員10名、事務職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

(1) 看護師・保健師国家試験全員合格を目指して対策の充実・強化を図る(国試合格率:100%)

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

(1) 看護師国家試験対策

- ・対策講座45回/年の実施、定期的模試の実施
- ・模試結果の不振学生に対する指導
- ・卒業生からのメッセージの対面開催
- ・保護者説明会の開催(1月)

(2) 保健師国家試験対策

- ・学生の学習意欲と学習方法の確認

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

(1) 学生が看護師像をイメージでき、目的意識を持ち将来の進路選択ができるよう支援する

- ・卒業生からのメッセージの開催(11月)
- ・保護者説明会を対面とオンラインで実施(1月)。

(2) 国家試験対策 100%合格を目標にした年間計画の作成

- ・1年生: 看護師国家試験過去問題への挑戦
- ・2年生: 低学年模擬試験の実施
- ・3年生: 基礎力チェックテストおよび看護師公開模擬試験の実施
- ・4年生: 看護師国家試験対策講座(45コマ)の実施、夏季・直前対策の実施  
看護師国家試験対策模擬試験の実施(必要に応じて個人指導の実施)
- ・学年交流会の実施(2月)
- ・保健師: 4回の模擬試験を実施
- ・保健師教育分野専任教員による保健師国家試験対策講座の実施

### 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

(1) 学生が看護師像をイメージでき、目的意識を持ち将来の進路選択ができるよう支援する

(2) 看護師国家試験対策講座に対する学生の反応の確認

(3) 国家試験対策 100%合格を目標にした年間計画のスケジュール再検討

(4) 保健師の国家試験受験の的確な意思確認

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

- (1) 学生が看護師像をイメージでき、目的意識を持ち将来の進路選択ができるよう支援する
- (2) 国家試験対策 100%合格を目標にした年間計画の作成
  - ・対策講座の開催時期と開催日程の見直し(2.3 に対する)
  - ・低学年時の意思確認の実施

## 国際交流委員会

### 1. 構成員

9名(教員7名、職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

(1)学部のカリキュラムの充実した運営による学生の学修環境の向上

本委員会の活動により、国際感覚を養い「国際看護論」を学ぶための環境整備に貢献したい。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

(1)サントームス大学との学生の直接交流再開準備として、教員同士の直接交流

(2)サントームス大学とのLIVE交流

(3)グローバルまちの保健室を鳥取県国際交流財団と協働

(4)JICA海外協力隊セミナー

(5)国際交流委員会活動紹介

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

(1)サントームス大学への学生の海外短期看護研修再開準備として、教員同士の直接交流

・3月に表敬訪問し、次年度の学生の海外短期看護研修についての概要を協議した。

(2)サントームス大学とのLIVE交流

・USTの学生・教員と共に、11月13日と11月20日の2回、ともに約90分間のライブで交流した。

(3)グローバルまちの保健室を鳥取県国際交流財団と協働

・10月18日に中部総合事務所、10月29日に鳥取市高齢者福祉センター、11月5日に米子コンベンションセンターにおいて、東部8名中部6名西部11名の学生が参加して行った。

(4)JICA海外協力隊セミナー

・8月4日にJOCA南部副代表の鈴木亜依子先生と助産師としてセネガルで活動された鳥越公美先生によって、60分のセミナーを実施した。

(5)国際交流委員会活動紹介

・前期後期のオリエンテーションで、イベントを告知して参加を促した。

(6)やさしい日本語研修

・2月14日に鳥取県国際交流財団の岩本由美子様と、鳥取大学教育支援・国際交流推進機構国際交流センター教授の御館久里恵先生から90分の講義をいただいた。

### 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

・4年ぶりの学生の海外短期看護研修に備え、物価高騰・円安などの懸念事項はあるものの、学生の安全面を中心に入念な準備が必要と考えている。

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

- (1) サントーマス大学で学生の海外短期看護研修
- (2) グローバルまちの保健室を鳥取県国際交流財団と協働実施
- (3) JICA海外協力隊セミナー実施
- (4) 国際交流委員会活動紹介
- (5) 活動実践報告会開催

## 地域貢献委員会

### 1. 構成員

16名(教員14名、事務職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

#### (1) 地域社会への貢献

・自治体と連携しながら、地域づくり健康づくりの発展に寄与し地域貢献の取り組みを積極的に推進する「まちの保健室」開催回数年間50件を目標値とする。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

#### (1) 「まちの保健室」の質向上を目指した運営

#### (2) まめんなかえ師範のフォローアップ研修および活動の充実

#### (3) 倉吉市との連携協働体制の推進

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

#### (1) 「まちの保健室」の質向上を目指した運営

・「まちの保健室」は年間43回開催した。内訳は「キャンパス型」(10回)、「コミュニティ型」(28回)、「イベント型」(5回)であった。

・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し「まちの保健室」の開催希望は増加したが、キャンパス型においては参加者の固定化や冬季は減少した。

・「まちの保健室」の運営において、受付後の測定までの待ち時間を有意義な場になるよう、あやとりなどの手遊びを取り入れた。また、「まちの保健室」に参加するすべての人々が楽しめるよう『参加型レクリエーション』を企画した。五感を使い参加者同士が触れ合い、助け合いながら取り組める〈お楽しみBOX〉を作成した。

#### (2) まめんなかえ師範のフォローアップ研修および活動の充実

・まめんなかえ師範塾修了者の期を超えたつながりの強化を図ることを目的とした、まめんなかえ師範の活動等に関する意向調査を実施した。

・コロナ禍以前に行われていた、まめんなかえ師範と教員との話し合いの場を復活させ『じげの健康づくりを語ろう会』を4回開催することができた。毎回6～10名の参加があり互いの取り組みや困ったこと等の意見交換や情報交換の機会になった。

・まめんなかえ師範のフォローアップ研修は11月、まめんなかえミーティングは3月に開始した。

#### (3) 倉吉市との連携協働体制の推進

・実務者会議は、年間14件の課題に対して、メール・電話、対面等で1件当たり複数回の随時対応で調整を図った。市の保健師と連携・協働を推進しながら実施した「まちの保健室」は9回、「AKB教室」は4回であった。

・「まちの保健室」の健康相談時、倉吉市の健(検)診勧奨リーフレットの配付に協力した。

・倉吉市を含む県内市町の保健師の参加延べ数は21人、16会場で協働することができた。

## 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

### (1)「まちの保健室」の質向上を目指した運営

- ・「まちの保健室」の開催目標数は50件であり、今年度は43回の開催であった。質を重視したまちの保健室運営を継続していく必要がある。
- ・「まちの保健室」への参加者の固定化や参加者数の減少があるため、待ち時間の工夫や参加型レクリエーションの企画は達成感が得られ好評であった。
- ・「まちの保健室」への学生の参加者数が減少傾向にあるため、学生への前期・後期のオリエンテーションにおいて、コミュニケーションスキルの向上や就職時のエントリーシートに自己PRできることなどメリットを伝えていく必要がある。

### (2)まめんなかえ師範のフォローアップ研修および活動の充実

- ・まめんなかえ師範の質の向上を図るため、フォローアップ研修やまめんなかえミーティングを継続していくが、マンネリ化を防ぐためにまめんなかえ師範の要望も聞きながら展開していく必要がある。
- ・まめんなかえ師範の『じげの健康づくりを語ろう会』を継続開催し、まめんなかえ師範との対話を重視し、活動への活性化へつなげていく必要がある。

### (3)倉吉市との連携協働体制の推進

- ・実務者会議の継続と充実を図っていくことが必要であり、委員会メンバーの変更や市の担当者の変更にも対応できる体制づくりの構築が課題である。

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

### (1)「まちの保健室」の運営

- ・キャンパス型は、「行ってみたい」「また行きたい」と思えるような魅力ある「まちの保健室」の企画運営を検討していく。具体的には、待ち時間の有効活用や測定の順番を参加者の様子をみながら柔軟に変更するなど工夫する、健康相談は次回へ繋がるようにするなど検討を加えたい。

### (2)まめんなかえ師範のための研修および活動の充実

- ・令和6年度は「まめんなかえ師範塾」が開講される。受講者の募集方法や研修内容などを工夫し、多くの参加者を募りたい。そのためには地域貢献委員会および先輩まめんなかえ師範との対話を重視し、ニーズ把握に努めながらまめんなかえ師範塾のプログラムを検討したい。

### (3)倉吉市との連携協働体制の推進

- ・前年度の実務者会議が有効に機能したことから、令和6年度も継続していく。

## キャンパス広報委員会

### 1. 構成員

10名(教員9名、事務職員1名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

- (1) 志願者の安定的確保
- (2) 優秀な学生の確保
- (3) 入学者の学力向上の取り組み
- (4) 社会人学生の募集強化

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

- (1) オープンキャンパスの充実
- (2) 進学説明会・見学会
- (3) 学生スタッフ組織
- (4) 動画・HPの活用
- (5) 来年度カレッジガイドの作成
- (6) 入学前準備教育の充実
- (7) 高校訪問
- (8) (高校教員対象)進学説明会・見学会
- (9) 高大接続事業等による情報の活用
- (10) 社会人への広報

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

#### (1) オープンキャンパスの充実

会場型4回(6～8月、3月)、オンライン型3回(4月・7月・9月)実施。その他ナイトOC(8月)、中学生対象「学びと仕事のワークショップ」(3月)の実施。全体的な満足度(満足+やや満足)98%

#### (2) 進学説明会・見学会の充実

高校内ガイダンス計40件、会場型進学説明会計25件、大学見学会計21件。初夏・夏の進学相談会(個別相談・イベント)、秋の入試対策講座、クリスマス相談会(個別相談・イベント)、「進学フェア」(2月)への出展など。

#### (3) 学生スタッフ組織

組織的な学生スタッフの活用を開始し、オープンキャンパス学科アワー「学生企画」等への参加があった。また、相談会イベントの「相談コーナー」・見学会での「在学生からのメッセージ」などでの学生の活用を推進。

#### (4) 動画・HPの活用(実施)

#### (5) 来年度カレッジガイドの作成(実施)

#### (6) 入学前準備教育の充実(2回実施)

- (7) 高校訪問(未実施)
- (8) (高校教員対象)進学説明会・見学会(実施)
- (9) 高大接続事業等による情報の活用(実施)
- (10) 社会人への広報(実施)

## 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

### (1) オープンキャンパスの充実

全体的な満足度は高い。学科アワー②学生企画は特に好評。オンライン型の視聴者数減。

### (2) 進学説明会・見学会

積極的な参加により、情報共有を図った。見学会ではできる限り当該高校出身の在学生による「在学生メッセージ」を実施し、好評。

### (3) 学生スタッフ組織

組織としての活用を開始できた。運用については継続課題。イベントにおける学生の活用は参加者から高評価。

### (4) 動画・HPの活用

HP記事は毎月UPできた。動画も活用し、学内の様子をよりタイムリーに発信していくことが課題。

### (5) 来年度カレッジガイドの作成

スケジュール通りの作成ができています。

### (6) 入学前準備教育の充実

アンケートから入学へのモチベーションを上げる効果が確認できた。2回を通しての効果検証が課題。

### (7) 高校訪問(未実施)

### (8) (高校教員対象)進学説明会・見学会

高校教員との接触機会を増やすことが課題。

### (9) 高大接続事業等による情報の活用

広報企画に活かせるよう、高校の状況についての情報共有の継続・充実が必要。

### (10) 社会人への広報

広報手段の検討・実施の継続が必要。

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

### (1) オープンキャンパスの充実

大学の魅力を打ち出せるような企画を立案して参加者満足度100%を目指した運営を進める。視聴者数が減少したオンライン型の検討。

### (2) 進学説明会・見学会

高校生・高校教員と直接出会う機会として、進学説明会には効果的な参加を継続する。模擬授業の依頼には、特に積極的に対応する。

### (3) 学生スタッフ組織

学生スタッフの効果的な活用に向けて、組織化を図る。登録した学生に対する研修会を年間数回実施するなど、学生スタッフへのサポート体制を確立する。

(4) 動画・HPの活用

HP記事や動画で学内の様子をよりタイムリーに発信していく。

(5) 来年度カレッジガイドの作成

内容を精査、高校生・保護者のニーズを意識しながら、本学の良さを最大限PRできるガイドを作成する。

(6) 入学前準備教育の充実

前年度の実施内容を検証し、新規企画を策定する。

(7) 高校訪問

入試広報課職員による年間7回の高校訪問と協働し、可能な範囲で教員による高校訪問を企画・実施する。

(8) (高校教員対象)進学説明会・見学会

より効果的な内容の検討、キャンパス広報委員も参加し、高校教員との接触機会を増やす方策の検討を行う。

(9) 高大接続事業等による情報の活用

教員対象進学説明会、高等学校校長会、鳥取県教育委員会との意見交換会などで得られた高大接続事業に関する情報を、キャンパス広報に活用する。

(10) 社会人への広報

「看護師」周辺の職種への広報も含めた、広報の可能性とその手段を検討する。

## 奨学生委員会

### 1. 構成員

6名(教員5名、事務職員1名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

- (1) 奨学金希望者への審議と、適切な指導を行う
- (2) 学修に専念できる環境を整えるため、奨学金による経済的支援の充実を図る。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PPLAN 当期実施計画)

- (1) 各種奨学金の適切な貸与(利用)に係る指導
- (2) 日本学生支援機構奨学金及び高等教育の修学支援新制度(授業料等減免、給付型奨学金)に係る審議と指導

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

- (1) 各種奨学金の適切な貸与(利用)に係る指導
  - 1) 令和5年度鳥取県看護職員修学資金借り受けのための審議と支援
  - 2) 令和5年度島根「ふるさと」看護奨学金借り受けのための支援
  - 3) 公益財団法人米濱・リンガーハット財団令和5年度奨学金無償給付事業のための審議と支援
  - 4) 本学学業特待継続希望者の審議と指導
- (2) 令和5年度日本学生支援機構奨学金推薦のための審議と支援
- (3) 令和5年度日本学生支援機構奨学金継続希望者の指導と適格認定

### 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

- (1) 各種奨学金の募集時期が重なることによる、手続き等が煩雑化
- (2) 学業特待継続不採用者に対する指導について

### 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

- (1) 各種奨学金の適切な貸与(利用)に係る指導
- (2) 日本学生支援機構奨学金及び高等教育の修学支援新制度(授業料等減免、給付型奨学金)に係る審議と指導

## FD委員会

### 1. 構成員

9名(教員7名、事務2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

(1)FD活動を通して、研究の質的向上を促進する。

組織的な取り組みに基づいて、各教員が自身の研究能力の向上を図ることができる体制を確立し、研究の充実を実現する。

(2)FD活動を通して、各教員の教育力向上を実現する。

各教員が常に個々の教育評価を行って、授業改善・教育能力の向上を図る体制の確立を行う。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

(1)初任者・現任者の研修

- ・全教員対象FD研修
- ・初任者研修

(2)学生による授業評価とその活用

- ・授業アンケート実施と集計・開示(前期・後期)
- ・授業アンケートの活用

(3)教育および研究活動の改善の方策

- ・授業公開の実施(前期・後期)
- ・ティーチングポートフォリオの教育評価報告書による代替
- ・学長裁量経費・教育研究PJ募集・審査・研究結果公開
- ・科研費等外部資金獲得支援

(4)FDに関するコンサルティング

- ・教員への各種コンサルティング
- ・学外研修に関する情報発信

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

(1)初任者・現任者の研修

- ・初任者研修
- ・第1回FD研修会:「科研費と申請書の書き方」(講師:世良喜子教授)
- ・第2回FD研修会:「発問と応答」(講師:高橋平徳愛媛大学准教授)
- ・第3回FD研修会:「令和5年度鳥取看護大学研究成果報告会」(各研究代表者)
- ・第4回FD研修会:「M-GTAの考え方と方法の理解」(講師:唐田順子山口県立大学教授)

## (2) 学生による授業評価とその活用

- ・学生の授業内容満足度としての授業アンケートについて、目標値をクリアできていた。
- ・授業アンケートに対する教員からのコメント作成を依頼した。
- ・授業アンケートの内容は、規定通り閲覧し、大学として検討する課題がないことを確認した。

## (3) 教育および研究活動の改善の方策

- ・授業公開を実施し、いずれも見学者も見学を受けた者も満足度が高かった。
- ・教育課程評価により、半期ごとの振り返りを実施できた。
- ・令和4年度学長裁量経費、教育研究プロジェクトについて、報告書を作成した。
- ・令和6年度学長裁量経費および教育研究プロジェクト助成について、当該年度に募集・審査を行い、採択課題を決定することとなった。
- ・科研費獲得については呼びかけを行い、添削や相談支援を行った。

## (4) FDに関するコンサルティング

- ・教員への各種コンサルティングのため、委員会所属教授のシーズを公表した。
- ・学外研修や助成金に関する情報を取りまとめ、定期的に発信を行った。

## 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

### (1) 初任者・現任者の研修

- ・有意味な学外者の講師招聘。
- ・科研費の申請率の向上。
- ・ニーズの高い研修内容をタイムリーに提供できる計画性。

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

### (1) 初任者・現任者の研修

- ・教員にニーズの高い、魅力ある研修を企画する。
- ・科研の申請を推進する。

### (2) 学生による授業評価とその活用

- ・引き続き学生による授業評価の推移と自由記載内容について、注視していく。

## 入学者選考委員会

### 1. 構成員

10名(教員7名、事務職員3名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

- (1) 志願者の安定的確保(数値目標:入学定員に対する受験者数2.0倍以上)
- (2) 入学者選抜試験実施体制の確立
- (3) 社会人学生の確保(数値目標:社会人入学者3名以上)

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

- (1) 指定校推薦枠の検討
- (2) 入学者選抜制度の検証と改革
- (3) 令和5年度入学者選抜の総括および令和6年度入学者選抜の実施計画策定
- (4) 入学者選抜試験問題の作成
- (5) 入学者選抜試験の適正な合否判定

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

- (1) 指定校推薦枠の検討  
今年度の実績を踏まえて、指定校枠を検討し決定した。
- (2) 入学者選抜制度の検証と改革  
各年度入学生の入学後の成績データと入試成績の相関について、IR部会からの報告・説明を受けた。
- (3) 令和5年度入学者選抜の総括および令和6年度入学者選抜の実施計画策定  
全入学者選抜区分について、募集から問題作成、実施体制、合否判定までを総括し、令和6年度入学者選抜について、運営体制を整備した。
- (4) 入学者選抜試験問題の作成  
年間計画とチェック体制にしたがって、適正に入学者選抜試験問題を作成した。
- (5) 入学者選抜試験の適正な合否判定  
入学者目標数を83と定め、各入学者選抜試験において適正な合否判定を行った。
- (6) 2025(令和7)年度入学者選抜の検討  
2025(令和7)年度入学者選抜からの公募推薦日程および選抜方法について検討・決定した。

### 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

- (1) 指定校推薦枠の検討  
適切な設定ができた(出願20名)。
- (2) 入学者選抜制度の検証と改革  
改革が必要な大きな課題はないと判断した。検証を継続する。
- (3) 令和5年度入学者選抜の総括および令和6年度入学者選抜試験の実施計画策定  
募集から問題作成、実施体制、合否判定まで、ほぼ計画通りに運営することができた。

(4) 入学者選抜試験問題の作成

年間計画とチェック体制にしたがって、適正に入学者選抜試験問題を作成した。

(5) 入学者選抜試験の適正な合否判定

各入学者選抜試験において適正な合否判定を行った。

(6) 2025(令和7)年度入学者選抜の検討

他大学の状況を踏まえて検討し、2025(令和7)年度入学者選抜からの公募推薦日程および選抜方法を決定できた。

**6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)**

(1) 指定校推薦枠の検討: 継続

(2) 入学者選抜制度の検証と改革: 継続

(3) 令和6年度入学者選抜の総括および令和7年度入学者選抜の実施計画策定: 継続

(4) 入学者選抜試験問題の作成: 継続

(5) 入学者選抜試験の適正な合否判定: 継続

(6) 2026(令和8)年度入学者選抜の検討: 継続

## 研究倫理審査委員会

### 1. 構成員

8名(7名、事務職員1名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

#### (1) 審査を適正、迅速に行う

- ・申請課題に対し、主査・副査制度を取りながら、委員全員の意見を取り上げ学長に報告する。
- ・学長からの結果通知が迅速になされるよう、委員会後の確認作業を速やかに行う。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

#### (1) 審査を適正、迅速に行う

- ・審査から学長報告までのプロセスや各種様式を継続的に検証する。
- ・申請者にとって申請プロセスがわかりやすいように、申請の手順書を適宜見直し、周知する。

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

#### (1) 審査を適正、迅速に行う

- ・令和5年度において、前年度からの継続審査3件と、新規申請7件があり、8件が承認された。2件は継続審査中である。
- ・委員会開催から学長報告までに要する時間は、1週間前後であった。
- ・適正な審査のために、主査および副査は、研究メンバー以外の委員から機械的に委員長が指名した。また委員会では、全委員からの意見を聞き取った。欠席する場合は、事前に意見を文書や口頭で聞き取るか、委員会後の議事録(学長への報告書)を確認してもらい、追加の意見をもらった。
- ・申請者の負担軽減を主な目的に、4月、5月、12月に申請の手順を見直した。主要な見直し点は、対応書の様式を作成、申請書の廃止、申請専用メールアドレスをつくり電子申請に移行したことである。その都度、サイボウズで周知した。
- ・COVID-19が5類移行となったが予防的な感染対策として、また利便性も高いことで、委員会はすべてGoogle Meetを用いて行った。

### 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

#### (1) 審査を適正、迅速に行う

- ・1件の申請につき、審査結果の報告、再申請後の報告と2回以上の学長報告が必要となっていることから、学長の負担軽減のためにも報告の簡素化の検討が必要である(令和4年度からの継続課題)。
- ・委員会開催から学長報告までのプロセスや各種様式については、継続的に検証する必要がある。

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

### (1) 審査を適正、迅速に行う

- ・審査から報告までのシステム、様式等について継続的に検討する。

○看護学研究科(大学院)

## 研究科教授会

### 1. 構成員

11名(教員9名、事務職員2名)

### 2. 第2次中期目標(6年間)

#### (1) ディプロマポリシーに基づく人材の育成・輩出

・教育課程を充実させ、ディプロマポリシー(①対象者や社会に寄り添い、しなやかに対応できる。②対象者やその社会の健康課題を見極めることができる。③健康の増進、疾病予防、健康回復、苦痛緩和に関する看護に変革の道筋を立てる。④多職種と連携協働し、そのリソースをつなげていくことができる。⑤日本や世界の地域の中に柔軟に浸透し、ケアが展開できる)に適う能力を備える人材を育成する。

### 3. 令和5年度の取り組み目標(PLAN 当期実施計画)

#### (1) カリキュラム運営

・2019年カリキュラムと2021カリキュラムの適正な科目運営  
・教員・学生の両者にとって意味深いカリキュラム評価体制維持

#### (2) 特別研究実施支援

・1年次生への特別研究支援  
・2年次以上の学生への特別研究支援

#### (3) 学生支援

・学生アンケートなどの学生からの意見収集と活用

#### (4) 入試広報

・2024年度入学生の確保

### 4. 令和5年度の取り組み(DO 実行)

#### (1) カリキュラム運営

・2023年度より新カリキュラムは支障なく運営できた。  
・就業しながら大学院に通う院生への時間割編成の早期の通知やオンライン授業への切り替えなど、弾力的な運営に努めた。  
・修了時のディプロマ到達度評価を、過去の修了生も合わせて実施した。  
・科目履修者数、各科目評価の実施、DP達成度、学生満足度評価を総合してカリキュラムの評価を行うため、年度末に教育課程評価の冊子をまとめた。

#### (2) 特別研究実施支援体制の強化

・修了学年の学生への特別研究支援として、4月のオリエンテーション、修士論文執筆や提出および修士論文発表会について、11月に詳細のオリエンテーションを行った。  
・8月の中間発表会で途中経過の報告をし、3名が修士論文を提出した。審査小委員会を立ち上げ審査し、公開発表会を経て、判定会議で、3名が修士論文合格と判定した。

- ・1年次生への特別研究支援として、入学時のオリエンテーションに加え、研究計画発表に向けて1月にオリエンテーションを実施した。
- ・8月の中間発表会や2月の修士論文発表会では、1年次生が進行も担い、運営を担当配分し、学生自身が特別研究の取り組みについて意識を高める機会とした。
- ・研究補助教員も参加する拡大研究科教授会を年2回開催し、カリキュラム運営、学生支援および広報活動などを共有した。

### (3) 学生支援

- ・学生の満足度調査のためのアンケートを全学生に向けて年度末に実施した。
- ・奨学金制度の活用について入学時にオリエンテーションを行い、活用した。またTA制度について、前期にオリエンテーションを実施し、一部学生が制度を活用した。

### (4) 入試広報

- ・今年度の重点目標として「定員確保に向けた広報活動の充実」を掲げ、取り組んだ。
- ・入試広報部と連携し、広報リーフレットとして、「鳥取看護大学大学院看護学研究科を知ろう！」のリーフレットを作成・配布した。東部2施設、中部4施設を病院訪問、および研究科長からのメッセージの動画作成をし、配信した。
- ・8月に学び直しプレ大学院講座を企画した。在学生、修了生、教員と「ともに学び・育ち合う大学院」のコンセプトを伝える機会とした。プレ講座の終了後、キャンパス案内やブース説明を行った。1回目入試で4名、2回目で1名の5名の入学生を確保した。

## 5. 令和5年度の取り組みについての課題及び問題点(CHECK 検証)

- ・カリキュラム運営において学生のレディネスに応じた教育運営
- ・継続的な入試広報活動の充実による、入学生の質と量を確保
- ・特別研究支援体制の充実に向けて組織的な取り組み

## 6. 令和6年度の取り組み(ACTION 改善策)

### (1) カリキュラム運営

- ・カリキュラム運営の着実な遂行と学生ごとの学修状況の把握
- ・カリキュラム評価の体系的な可視化

### (2) 特別研究支援

- ・組織的な支援体制の構築に向けた取り組み

### (3) 学生支援

- ・複数の相談窓口を明記し、相談しやすい環境づくり

### (4) 入試広報

- ・学び直しプレ大学院講座の開催などによる広報活動の充実
- ・看護学部の卒業生への同窓会などの連絡ツールを活用した募集活動